
チョコパイとキミ

音無 無音

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

チヨコパイとキミ

【Nコード】

N8685U

【作者名】

音無 無音

【あらすじ】

甘いチヨコレートのような初恋相手は彼女です。

俺が君と話したのはあの時だった。

「えーっ、あたしははんたいい！」

とみんなが賛成の中、反対意識の彼女。

「だって、っーちゃんどーするの？」

「はあ？月野はいいだろ？」

どーせ引きこもりだしなー、と笑う。

月野って言うのは月野むあ。

引きこもりって言われてるけど

影ではプログラミングやパソコン関連の仕事に

ひっそり携わってる言わば天才だ。

「・・・・・・・・じゃああたし、いつかない」

「！」

その言葉に俺を含め男子全員が反応する。

この企画は男子が彼女に近づくための企画でもある。

・・・・・・・・で、結局のこと中止になったんだが。

放課後、俺は行きつけのコンビニへと向かった。

新作の俺の好物の菓子が発売されたのだ。

・・・・・・・・っふ。我ながら大人げない。

そんな気持ちを抱きつつ、俺は店内へと足を運んだ。

・・・・・・・・で、一番最初に見つけたのが・・・・・・・・

「戸畑さん・・・・・・・・？」

「えっ！？わっ！素也くん？」

お菓子コーナーと子供っぽい字ででかかど書かれた場所にいたのが

俺の言う「君」の戸畑さんだった。

「話すの初めてだよね」

彼女はそう切り出した。

俺は適当に相槌を打つ。

「素也くんは何しにきたの？飲み物かなあ？」

「えっと、お恥ずかしいことにお菓子を……」

「えっ、ホントー？……まさかの」

「「これ」」

俺らはこれまた恥ずかしいことにハモってしまったのだ。

指を差した先も同じ 新作のチョコパイだった。

「ぶっ、クスス。おんなじだあ」

ふいにも彼女の微笑みに心が揺らぐ。

で、敵はクラス全員だぞ！

「二種類あるね。ねえね、君がそっち買って、あたしがこれ買うから分けようよ」

その発想も可愛い。

勿論俺は彼女の言うとおりにした。

チョコパイを食べ、帰り道。

俺らはメアドの交換をすることになった。

「……や、別に俺と交換しても……」

「いいのぉ！チョコパイ仲間でしょぉ？」

くっ、怒ってるのも可愛いぜ……

俺みてえな地味メンはだめだろうなあ。

そして彼女は分かれ道でこう言った。

「また一緒に食べようね。素也くんと食べるとき、あたしすっごい

幸せ」

「・・・・・・・・・・・・・・・・・・！」

その、言葉は・・・・・・・・・・、どう受け取れば？

「・・・・・・・・んもう、鈍感ッッ」

俺に小走りで歩み寄る。

そして

俺の唇と彼女の唇が優しく触れる。

「・・・・・・・・・・ッ」

「・・・・・・・・えへへ」

くるりと振り返る彼女の顔は微かに赤く染まっていた。

「好きだよ、素也くん」

（後書き）

冷蔵庫のチヨコパイからの発想

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8685u/>

チョコパイとキミ

2011年10月3日11時17分発行